

プロ意識の高いトラックドライバー

— トラック輸送の現状はどうなっていますか。

中西 貨物輸送の約9割がトラックで運ばれています。長距離は鉄道や船で、ということもありますが、最終的に消費者に物をお届けするのは、トラックの要望に応じて、いろいろな形のトラックを用意してご利用いただいています。例えば、精密機械を運ぶには、エアサスペンションのトラックを使って振動が少ないよう、また、衣料品はかけたまま運べるハンガー輸送などのようにです。

— 平野さんは今、築地の魚河岸の若おかみで、トラックとの関わりも深いと思いますが。

平野 私は大学を卒業した30年前に、ラジオで「走れ歌謡曲」という深夜放送のディスクジョッキーをしていました。夜中の3時から5時まで生放送で、トラックドライバーさんの声をよく聞いたり、直接インタビューもしました。平成元年に築地にお嫁にきました。その頃は、

者は、そういう専門の管理者を置いて、いろいろなことを研究しています。

昼夜働くトラックのPRを

— 平野さんのお仕事の関係で言いますと、トラックの果たす役割で日ごろ感じていることは。

平野 ドライバーの方には、すごく感謝しています。私たちの仕事はトラックがないと成り立ちません。築地に関していえば、夜11時を過ぎて銀座から勝鬨橋の方まで行くと、保冷車がドンドン入ってきて、大渋滞をしています。賑やかな築地が始まつたなと感じます。お天道さまが上がってくると、セリ

が始まって、人々のラッシュの前に、もう共同配送のトラックが出て行き、小売店に運んで行く。私たちの寝てる間に、これだけのことをしてくれる、このようないいなと思いませんね。物流ということを、私は嫁いでからものすごく意識するようになりましたが、やはり一般の方たちにも、分かつてほしいな、と思います。ただ、そのためには、メディアなり、私たちも、もっとPRしていくたいですね。

中西 夜中にこれだけのトラックが走つてることを、一般の方たちはぜんぜん気が付かない。スーパーに行けば自然と物が店頭に並んでいて、それを買えば食べられるという、そんな感覚が染みついておられるわ

けですからね。

平野 一般の人はそれが当たり前だと思っていますね。

中西 そこに行くまでに、いろんなプロセスがあるということを知つていただきたいですね。

平野 ドライバーコンテストなども、たとえば学校の生きた社会科授業の一環として見学してもらおうとか、もっと公開してもいいのだと思います。内輪だけのコンテストで終わらせてしまふにはあまりにも、もつたいない気がします。安易な考え方ですけれども、バラエティ番組で卓越した技量を伝えるために様々な趣向をこらした企画を見たことがあります。トラックドライバーの運転技術の高さ・確かさを感じてもらえるような番組を作つてみていいのではないかと思います。

中西 業界としては、事故防止を第一に、ドライバーの地位と運転技術の向上を図る目的で、「トラックドライバーコンテスト」を毎年、実施しています。


トラックドライバーコンテストでのスラローム競技

まだ、普通のトラックが多くかったのですが、最近はバン型や保冷車などもかなり多くなっています。私も運転が好きでよく車に乘りますが、最近ではタクシーよりもトラックの後ろに付いた方が、安心な場合があります。プロ意識の高さを感じます。

平野 運転のセンスがあり、機敏な女性も増えてきたので、もうちょっとスポットライトを浴びるスターを作っちゃうとかですね（笑）。コンテストのときに、女性部門で出場した人を様々なメディアで紹介したりとか、そういういい意味での区別というのをしていただくと、コンテストの認知度も上がるのでは。今は、宅配便が増えていますから、私たちがトラックのドライバーさんと接する機会も増えています。ドライバーさんというのは生活に密着して、地域の中にもすごく浸透していると思います。

1 全日本トラック協会対談シリーズ

暮らしを支える 身近なトラック輸送

物流の9割を担うトラックは、私たちの日常生活に欠かせない存在となっている。だが、トラックの果たしている役割は、なかなか消費者に理解されていないこともある。全日本トラック協会の中西英一郎会長と、声優でエッセイストのほか、築地魚河岸の若おかみとしてトラックとの関わりも深い平野文さんと2回にわたって「トラック輸送の使命と役割」をテーマに語ってもらった。(司会は毎日新聞社東京本社・川口裕之)



中西英一郎
全日本トラック協会会長
日本ロジテム株式会社社長



平野 文
3歳から舞台を踏み、12歳でテレビドラマに出演。78年深夜放送「走れ歌謡曲」のディスクジョッキーを担当後、アニメ・洋画の吹き替え、ナレーションの他リポーターとしても活躍。89年築地魚河岸の仲卸業三世代目と結婚、魚河岸の若おかみも務める。

サンデー Excellence



トラックは変わりつづけます。生活と環境を守るために。
JTA 社団法人全日本トラック協会
<http://www.jta.or.jp>

